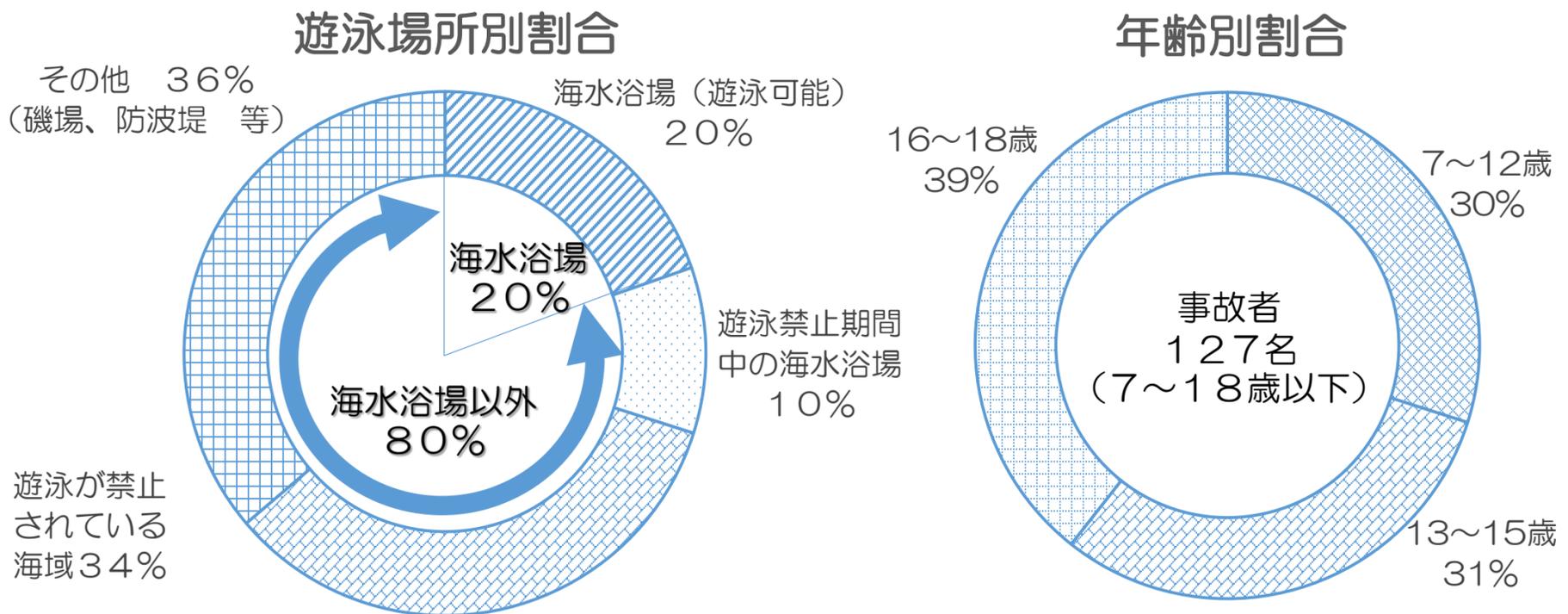


## 児童・生徒の海浜事故防止について

関東及び関東近隣（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県）の海浜では、遊泳中の事故が多発しており、そのほとんどが夏休み中に発生しています。

過去10年間における7歳から18歳以下の事故者は127名で、そのうち35名（28%）の方が亡くなっています。



【海浜事故の約8割は海水浴場以外で発生】 【高校生の割合が最も多い】

### ○若年齢層（7～18歳）による海浜事故の分析

発生状況：88%が夏休み中に発生（内訳：7月 39名、8月 73名）

場所：80%が海水浴場以外の場所で発生（遊泳禁止期間中の海水浴場を含む）

原因：漂流49名（39%）、波に引き込まれる27名（21%）、深みにはまる19名（15%）

※ 事故の約6割が離岸流の影響によるものです。

#### <事故事例>

1. 事故者（17歳）は、友人ら7名と海水浴場を訪れビーチバレーに興じ、そのうち4名が遊泳禁止海域において遊泳を開始したが、事故者のみが離岸流により沖合いに流されて漂流。波間に揉まれて溺れて行方不明となり、翌日遺体で発見された。（強風・波浪注意報発令中）
2. 事故者（8歳）は、姉及び友人等とともに遊泳禁止海域で遊泳中、深みにはまって溺れた。救助に向かった姉も事故者とともに離岸流により沖合いに流された。姉はサーファーにより救助されたが、事故者は行方不明となり、翌日遺体で発見された。（強風・波浪注意報発令中）

他にもこんな事故が起きています。

- ・事故者（14歳）が防波堤の上をスマートフォンを見ながら歩いていたところ、足を踏み外して海中に転落。
- ・事故者（16歳）が防波堤の波消しブロックの上を渡っていたところ、足を滑らせ海中に転落。

### 事故に遭わないために・・・

- 海水浴場以外の場所では泳がない！**
  - ・海水浴場は、ライフセーバー等により監視体制がとられるため、事故の早期発見。救助が可能です。
  - ・海水浴場は、深みや離岸流の発生などの危険要素少なく、安全に遊泳することができる海域とされています。
- 風の強い日や波の高い日は、けっして海辺に近づかない！**
  - ・事故の多くは、荒天時（強風・波浪注意報等発令中）に発生しています。
- 離岸流が発生しやすい場所に近づかない！**
  - ・離岸流はどこでも発生しますが、人工構造物の近くなど離岸流が発生しやすいとされている場所には近づかない。
- 集団行動時には周りの行動に流されず、自分の泳力を見極める！**
  - ・ふざけて無理をして泳ぐことは危険です。

# 離岸流ってなんだろう？



## 沖にながされたときの脱出方法



### 離岸流とは・・・

海水浴場や海岸付近では、岸から沖に向かう流れが発生することがあり、これを「離岸流」と呼んでいます。その速さはオリンピックの競泳選手並みになることもあり、海岸であればどこでも発生する可能性があります。「離岸流」に遭うと、水際で泳いでいる人が沖へ“あっという間”に流されてしまうことがあり、大変危険です！

### 「離岸流」からの脱出方法

- ① 慌てずに、付近の人に救助を求める
- ② 海岸線と平行に泳いで「離岸流」から抜け出す

「離岸流」の幅はわずか10m～30mといわれています。そのため、岸に向かって（流れに逆らって）泳がず、海岸線と平行に泳ぐと、無理なく岸へ向けて泳ぐことができます